

名古屋市老人クラブ通信

第64号

なごやかひろば

発行 なごやかクラブ名古屋  
 (公社)名古屋市老人クラブ連合会  
 〒462-0844 名古屋市中区清水四丁目17-1  
 名古屋市総合社会福祉会館6階  
 TEL.052-991-7734 FAX.052-991-7581  
 http://www.nagoyarouren.com

制作 (株)博報社 名古屋支社  
 〒462-0843 名古屋市中区田幡2-13-23 2F-B  
 ☎0120-0212-09

毎年1・4・7・10月発行 発行部数7万5千部



新年のごあいさつ  
 なごやかクラブ名古屋  
 公益社団法人名古屋市老人クラブ連合会  
 会長 三溝 芳隆

令和4年の年頭にあたり、会員の皆さまに謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は猛威をふるう新型コロナウイルスの影響により、多くのクラブが活動の中止や延期を余儀なくされました。市老連からも諸行事について長期間の自粛をお願いしてまいりました。皆さまのご協力に厚くお礼申し上げます。クラブ活動が大きく制約を受ける中、新しい生活様式をふまえ工夫を凝らして活動いただいたクラブも多くあります。行事を通じて『お久しぶりです』『お元気で！』と声を掛け合える会員同士の交流がいかに大切であるか、身に染み

た一年でありました。さて、昔は2世代3世代で暮らす家族が多かったのですが、最近核家族化が一層進み、家族は個々に個人化する傾向があります。いわば「家庭氷河期」の時代と言えます。さらには超高齢社会を迎え「高齢者インフレ」の時代でもあります。一方、IT(情報技術)の発達でさまざまな事が個々のネットワークで対応できるようになりました。それに伴い組織の在り方も変える必要が出てきていますが、人間関係まで機械化させてはいけません。

しかしながら役員の高齢化等による後継者難でクラブの解散が増え、会員の減少が続いております。このことは最大の課題であり、市老連理事会でも対応策を検討しています。例えば、「会員の高齢化で思うようにクラブの運営ができない」、「会長の後継者が見つからない」などクラブ運営に関する困りごとについて相談窓口を設けるなどの対応策です。ただし、クラブ役員個々の対応には限界があります。会員の皆さまのお力添えはもとより、高齢者の地域活動への参加について、行政や自治会、社会福祉協議会など関係団体と一層の連携強化をはかるとともに、力強いご支援をお願いしたいと存じます。そして皆さま、いつまでも元氣高齢者で地域に少しでも貢献しようではありませんか。

結びに、皆さま方のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。



「なごやかクラブ運営事務相談室」を設けました。気軽に相談ください

会員の減少が続いています。主な要因は、会長の後継者が見つからないことによるクラブの解散です(過去2年間の退会者約8,500人のうちの約60%がクラブ解散によるものです)。この中には、引き続きクラブ活動を続けたかったという方もたくさんおみえになります。

「会員の高齢化により、思うようにクラブ運営ができない」、「会長の後継者が見つからないため、存続できない」、「補助金事務がわからない」など、さまざまな困りごとがあるかと思えます。

このため、相談窓口を設けました。少しでもお力になればと思います。お気軽にお問い合わせください。

【問い合わせ先】 区役所福祉課内 区老連 活動推進員 名古屋市老連 ※電話番号は2ページに掲載



「六十四」  
 なごやか彩時  
 シリーズ  
 中區 闇之森八幡社

■交通「金山駅」から徒歩15分、国道19号線「九丁堀」信号を西へ徒歩5分

本社は、江戸時代後期の地誌「尾張志」によると、平安時代後期に源為朝(源頼朝の叔父)が清水八幡を勧請し、創建したとされています。

祭神は応神天皇、仁徳天皇、神巧皇后です。本殿の西に為朝使用の武具を埋めたと言われている跡塚が残っています。

かつて神域には大木が鬱蒼と茂り、月の光も射さぬと句に詠まれるほどで、いつしか闇ヤミの森と呼ばれるようになり、名古屋十名所に数えられました。

明治時代になり、尾張徳川家18代当主、徳川義禮公は石垣修築の献金をされ、本社南の第一鳥居は、19代当主徳川義親公直筆の幣額が掲げられています。

こうした歴史により、昭和6年に社格は昇格して郷社となりました。